



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 ”深山たかし”で閲覧できます。

議会リポート

第二産業道路進捗状況

第二産業道路は、水上公園入り口のところまで整備されてきました。

上平地域にお住まいの皆様にとつても、関心も高く、住環境の変化に対する不安を抱えている方が多いことから、質問を行いました。

第二産業道路は、さいたま市境から、原市地区をとおおり、旧上尾市場(いちば)通りの県道上尾久喜線までを結ぶ道路として昭和三十七年に「原市上平線」として都市計画決定しました。その後、平成九年に道路線形の変更や県道上尾久喜線から、菅谷六丁目の桶川市境まで事業区間約一・一kmを延伸する都市計画決定の変更をし、現在、水上公園前の通りである県道上

尾環状線から県道上尾蓮田線までの区間について、埼玉県が事業主体となり事業を実施しています。

計画道路の構造

主要道路との交差について立体交差として、水上公園前の県道上尾環状線との交差部については、第二産業道路が下をくぐる、アンダーパス方式。

また、通称「ハナミズキ通り」である都市計画道路・小敷谷吉田線の交差点を北に約二〇〇m行きました、丁度、パチンコ店「ヤマフジ」を越えたあたりからは、高架となり、上に本線が走り、高架の下へ生活道路が走る構造で桶川市まで都市計画決定がなされています。

計画道路の周辺環境への配慮について

上平地区は、未だ詳細な事業計画が策定されておりませんが、現在、整備が進められている水上公園前の県道上尾環状線との交差部においては、都市計画上是アンダーパス方式ですが、現在、平面交差での整備が実施されています。

このようなことから、高架方式による整備は、渋滞解消の手段には適していると考えられますが、一方では、整備費が膨大であり、日照や沿道の土地利用にも大きな影響があるため、今後の整備においても、平面での整備が優先されるものと考えています。

計画では道路幅員は三〇mとなっています。

現在原市地区で整備中の道路と同程度の整備がなされることとしますと、両側に一・五mの植樹帯と四mの歩道が設置されていることから、本線からは一定の距離が確保

保されます。

この幅員の中で、環境へ配慮した、緩衝帯の構造などについて、具体的な事業計画を策定する前の段階で、市や沿道事務区の皆様と十分協議しながら、整備手法等を検討するよう県とも連携をはかって行きたいと考えています。

図書館建設関係 知って頂きたい事

(仮)中央図書館基本構想が提示されましたが、何故『上平』なのかとの意見が噴出し、三月議会では、図書館建設を上平に選定した経緯が不明朗との意見や建設を急ぐ理由は何か、図書館は駅から至近距離が当たり前等の意見が出されました。六月議会で「(仮)上尾中央図書館の移転計画の見直しを求める請願」も提出されました。場所に関する意見ばかりで「上尾市図書館の将来像」と言った建設的な議論が置き去りになっています。残念です。

(仮称) 上尾市中央図書館の建設について

新しい図書館を建設する意義

なぜ、新しい図書館の建設が必要となったのか、理由が『みんなの図書館』三・四月号に紹介されていきましたので、掲載します。

今まで図書館を利用しなかった市民の皆様にも、気軽に利用できる素敵な図書館にしたいと考えておりますので、応援をお願いいたします。

上尾市図書館本館は、昭和五十六年六月に開館以来、たくさんの方々の皆さまに親しまれ、ご利用いただいできました。
しかし、人口の増加とともに、蔵書数が増えるにつれて図書館は狭くなり、資料の収容能力は限界に達しています。特に開架の書架数が不足しており、本館の開架率(※1)は四〇%に留まっています。
また、施設の老朽化に加

えて、閲覧席等の不足、書架の間隔の狭さや高さなど、誰もが利用しやすい施設にはなっていない。
これらを踏まえ、「上尾市総合計画」・「上尾市図書館サービス計画」等に基づいて、新図書館を建設することになりました。

新図書館は、後に説明する「(仮称) 上尾市中央図書館基本構想」(以下「構想」)を実現するため延床面積四千〇五〇㎡(現本館二千六四九㎡)を想定しています。

建設候補地については、現図書館敷地での建替えを含め、上尾駅西口大駐車場及びその周辺、大谷北部第一四土地区画整理地内、上平公園西側等での検討をいたしました。

四候補地の比較検討をした結果、現本館位置での建替えでは、十分な床面積がとれないことや建設工事中は図書館が長期に閉館になるなど、弊害が多くなるこ

とから、最終的に交通の便、敷地面積、建設コストなどを総合的に判断し、上平公園西側の土地を新図書館候補地とするとの結論になりました。

昨年七月、育児サークルや障害者団体、図書館に関するボランティア団体、学校図書館や県立図書館関係者等から構成した「(仮)上尾市中央図書館建設懇話会」を設置し、各委員から新図書館の施設に関する意見や要望をいただいています。

昨年十一月に「構想」を策定し、市民の皆さまにお知らせしました。

「構想」には、
①蔵書冊数四十七万冊(現図書館約三十五万冊)、開架冊数二十八万二千冊(現図書館約十四万冊)を目標とする。

②授乳室の設置や書架間隔を十分に確保し、低書架の採用をはじめ、身体に障害を持った人々に使いやすい

ユニバーサルデザイン化を図る。

③読書席や閲覧用の机を多数設け、ゆったりと読書や図書館資料を使った調べものができる。

④図書館資料をICタグ管理にし、自動貸出・返却を可能にする。

⑤対面朗読室と録音室(現図書館には録音室は無い)及びボランティア室等を設置し、図書館の利用が困難な人へのサービスを拡充する。

⑥講演会や各種講座、映画会等のための多目的室や学習室等を設置し、生涯学習活動を支えるとともに図書館利用の多様化に対応する。

⑦無線LAN環境や利用者用端末及びオンライン・データベースの拡充などICT環境を整備する。

⑧上尾市に関する各種資料を収集・提供する郷土資料スペースを充実する。

⑨飲食コーナーを設置する。
：等々、小さなお子さんからご高齢の方、図書館の利用に障害のある方までのさ

さまざまな目的やさまざまな利用の仕方に応えられる施設を目指します。

また、昨年十月末〜十一月末に「構想(案)」について市民の皆さまのご意見を募集しました。

主な意見は、新図書館への交通手段を心配する意見と現図書館本館の存続に関するものでした。今後、市は市内循環バスの運行ルートの変更を検討するとともに、現本館の施設利用については、平成二十七年に策定する「上尾市図書館サービス計画」及び「上尾市公共施設マネジメント計画」の中で検討してまいります。

●今後のマネジメントを考慮し、青少年センターとの複合手法を検討。

また、現在の本館に一定の図書機能を残すことも検討しています。

(※1) 開架率

蔵書数に占める開架資料の割合 図書館資料のインターネット検索及び予約は増えているが、まだまだ書架で本を探す人は多く、図書館資料は開架資料になると、著しく利用率が下がる。日本図書館協会の基準は開架率六〇%以上としている。